



安全上のご注意!

この度はMarkbass アンプをお買い上げいただき有難うございました。

使用開始前に、安全のため下記の説明を良くお読み下さい。
お読みになった後は、必ず保存しておいて下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重要な内容を記載していますので、下記の指示を必ず守って下さい。
本書では危険や損害の程度を次の区分で表示し、説明しています。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表示しています。
 注意	この内容を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者が傷害を負う可能性、および物的損害のみの発生が想定される内容を表示しています。

本書で使用する絵表示は、次のような意味です。

	警告・注意を促す内容があることをお知らせするものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。
	禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。
	行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。



製品に記されているすべての注意書きに従って下さい。
長期間使用しないときは必ず電源を抜いて下さい。延長コードをご使用になる場合は必ず容量に見合ったものをご使用下さい。
電源コードは手荒に扱わないで下さい。定期的に断線していないか、あるいはその兆候がないかチェックして下さい。特に両端のモールドの部分に振れがないか注意してください。
電源コードの上には何も置かないで下さい。通路にはコードがかからないように設置して下さい。



注意
キャビネット内の空間、裏面や底面の穴は通気のために設けてあります。穴をふさいだり覆ったりしないでください。十分な空間がないとオーバーヒートの原因になります。本製品をビルトインで設置する場合は、適切な冷却装置を必ずご使用下さい。
長時間大音量で演奏すると、耳に負担がかかり、難聴になる危険があります。やむをえず必要な場合には、耳栓を使用するなどして、自衛手段を講じて下さい。



警告
この製品は水気のあるところでご使用にならないで下さい。
この製品を不安定な台車、スタンド、またはテーブルなどの上に置かないで下さい。製品が落下して故障の原因となることがあります。
付属の電源コード以外ご使用にならないで下さい。また、製品の裏面に表示してある電圧以外での使用は避けて下さい。
本装置を住宅環境で使用すると無線障害を引き起こす可能性があります。



禁止
アンプの上にドリンクなど置かないで下さい。こぼれて故障や感電の原因になります。絶対にご自分でカバーを開けて修理、改造等しないで下さい。製品の内部には高電圧の部分があり大変危険です。必ずお買上になった販売店までお問い合わせ下さい。
下記の場合、ただちに電源を抜き、必ず修理又は点検に出して下さい。
＊電源コードまたはプラグが破損した場合。
＊製品の上に液体がかかった場合。
＊製品に水や雨がかかった場合。
＊説明書通り操作しているにもかかわらず正常に作動しない場合。
＊製品が落下した場合やキャビネットが破損した場合。
＊音質等性能が著しく変化した場合。



ヒューズを交換する際は、必ず同じ規格の物を使用して下さい。異なった規格の物を使用すると、発火や故障の原因になります。
ストーブ等の火気の近くには設置しないで下さい。

発火や感電を防ぐため、湿度の高いところや雨のあたるところではご使用にならないで下さい。キャビネットの隙間などから異物を入れたりしないで下さい。
内部には専門家以外の方で修理できる箇所はございませんので、異常が発生した場合はお買上になった販売店にご連絡下さい。

Markbass / DV Mark 日本総代理店：パール楽器製造(株)
〒276-0034 千葉県八千代市八千代台西10-2-1
改良のため予告なく仕様の一部を変更することがありますので、予めご了承ください。
2026年9月現在 AM202609

製品に関するお問い合わせはこちら
<https://pearlimport.zendesk.com/hc/ja>



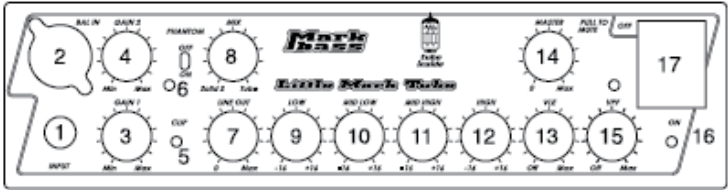
Little Mark Tube Little Mark Tube 800



取扱説明書



1. FRONT PANEL



- | | | | |
|----|-----------------------------|----|-----------------------------|
| 1 | アンバランス1/4" 入力ジャック | 13 | VLE（ヴィンテージラウドスピーカー・エミュレーター） |
| 2 | バランスXLR、1/4" ジャックコンボ入力 | | フィルター・レベル・コントロール・ノブ |
| 3 | 1/4"入力ゲイン・コントロール・ノブ | 14 | マスター・ボリューム・レベル・ノブ |
| 4 | XLR、1/4"ジャック入力ゲイン・コントロール・ノブ | | （ミュート・スイッチ付） |
| 5 | クリップLED | 15 | VPF（バリアブル・プリシェーブ・フィルター） |
| 6 | 48Vファンタム・パワー・オン／オフ・スイッチ | | レベル・コントロール・ノブ |
| | （バランスXLR、1/4"ジャックコンボ入力用） | 16 | パワーオンLED |
| 7 | ラインアウト・レベル・ノブ | 17 | メイン・オン／オフ・スイッチ |
| 8 | ミックス・レベル・コントロール・ノブ | | |
| 9 | ロー・イコライザー・コントロール・ノブ | | |
| 10 | ミッド・ロー・イコライザー・コントロール・ノブ | | |
| 11 | ミッド・ハイ・イコライザー・コントロール・ノブ | | |
| 12 | ハイ・イコライザー・コントロール・ノブ | | |

INPUT

1/4"インプットジャック(1)は、パッシブとアクティブのベース両方に使うことができます。バランスドインプット(2)は、バランスドXLRインプット用でアコースティックベース・ピックアップにも対応します。このインプットでは、ベース演奏と同時にマイクを接続して使うことができます。

GAINとMASTER

フロントパネルには、ボリュームをコントロールする2つのノブがついています。GAIN(3,4)はアンプユニットのイコライザーやエフェクトループといった機能を含むブリアンプ部に、どれくらいのシグナルを入力させるかをコントロールするものです。MASTAR(14)ボリュームはパワーアンプ部からスピーカーキャビネットへの出力を調整するものです。

もしプレイ中に青いCLIPランプ(5)が点灯したら、歪みをなくすためにゲインを下げてください。

アンプに楽器を接続する前には、必ずGAIN(3,4)とボリューム(14)を絞った状態にしておいてください。そして、楽器側のボリュームをフルにし、強く激しく音を出しながら、GAINコントロールを青いランプが点灯しはじめるくらいに上げてください。次に、演奏してもライトが点灯しない程度にGAINをやや絞ってください。この手順により、いま演奏しているベースにとって最適なGAINに設定することができます。なお、ピックアップやアクティブ/パッシブタイプ、またブリアンプやEQのセッティングなどにより、ベースが異なるとアウトプットレベルもそれぞれ異なります。

いったんGAINレベルをセットしたら、あとはMASTERノブでボリュームを調節してください。

EQUALIZATION

マークベースアンプはお持ちのベースのナチュラル・サウンドを忠実に再生できるよう設計されています。もしあなたが良い楽器をお持ちならば、イコライゼーションは最低限にとどめておくのがよいでしょう。ベースギターは聞こえないほどの超低域から、ツイーターで鳴らすような、またはほとんど聞こえないような超高域にわたる、極めて幅広い周波数域を再生する楽器なのです。EQのセッティングをいくつか試してみるとわかりますが、異なる周波数域それぞれが、ベースのトーンを作り出す上において欠くことのできない重要な役割をになっているのです。

LOWコントロールが扱う周波数域は、サウンドにパワー感をもたらす音の土台ともいべき要素で、リスナー、そしてあなたの体をゆさぶり、時には人々が体を動かし・踊りだしてしまうような性質を持つものです。

LOW MID s (Mid Frequency Low)はベースサウンドの音圧感を高めるコントロールで、空間をみたすような遠達性のある音を作りだします。

HIGH MID s (Mid Frequency High)は、演奏のピッチ感や音程感を調整するのに適したコントロールです。ベースのメロディ・ラインを明瞭に聞かせることができる、透明感豊かな周波数域ということができます。別言すれば、この周波数域が明瞭

でないと、あなたが作り出すメロディックなベースサウンドが音楽のなかに埋没してしまう、ということができます。

HIGHの周波数域はアタックや音程感といったパーカッシブな特性を持つもので、これには指/ピックでの弾弦やフレットノイズ、スラップや演奏時のピリつきなどが含まれています。

アンプのイコライザー・コントロールのうちのどれか1つが操作されているというだけで、あなたのベースが生み出す本来のサウンドは正確に反映されなくなってしまう、という言い方もできます。リトルマークは全ての周波数域にわたってクリアで明瞭なサウンドを生み出すことができるよう設計されていますので、イコライザーのノブが12時のフラットな位置にしておけば、あなたのベース本来のサウンドを再生することができるのです。

ただ、下記のような状況では、イコライゼーションを行う必要があります。

- お持ちのベースのサウンドそのものが、特定の周波数域が弱いという特徴を持っている場合。
- 響きが悪く、特定の周波数が強調されてしまう部屋や会場での演奏。例えばステージなどで、低域が極端に鳴ってしまう場合や、ある音域だけが目立って大きく鳴ってしまう場合などがこれにあたります。この場合、問題のある周波数域を絞るなどして調整する必要があります。
- 一種のエフェクトとして音色を変化させようとする場合。
- イコライゼーションは繊細に行わなくてはなりません。セッティングの変更を始めるときは、まずEQコントロールをすべてニュートラル(12時)の位置にし、アンプから出力されるベースの音を聞きながら、じっくりと時間をかけて行ってください。いすれにせよ、あまりコントロールに大きな変更を加えない方が理想的です。

VLE、VPFフィルター

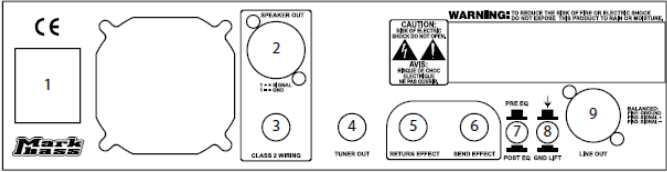
イコライゼーションによってあなたのベースサウンドに特別な効果をもたらす、マジックとも呼ぶべき2つのコントロールノブを装備しています。ベースストにとつての実戦的な要求に応えるべく、特別に設計されたものなので、通常のEQよりも頻繁に使われるノブといえます。

VLEフィルター(13)（ヴィンテージ・ラウドスピーカー・エミュレーター）は、高域をカットし、メロウなサウンドを作り出します。時計まわりにノブを回すと、カットされる高域の周波数が広範囲になります。このEQは、アコースティック、またはオールディーズ風の音楽に有効です。

VPFフィルター(15)（バリアブル・プリシェーブ・フィルター）は、低域と高域をブーストし、中域(380Hz周辺)をカットします。ロックには最適なパワー感が得られるフィルターであり、またスラップベース・プレイヤーの好みにも合うフィルターといえます。

この2つのフィルターは最初、オフの状態にしておき、徐々にお好みの効き具合に調整してゆくといいでしょう。また、調整は当初、一方ずつ行い、追って2つのフィルターを組み合わせると、素晴らしい効果が得られることでしょう。

2. REAR PANEL



- ACパワー・ソケット
- スピーカーアウト（スピコン／1/4" フォーン・コンボ・ジャック）
- スピーカーアウト (1/4" フォーン・ジャック)
- チューナー・アウト (1/4" フォーン・ジャック)
- エフェクト・リターン (1/4" フォーン・ジャック)
- エフェクト・センド (1/4" フォーン・ジャック)
- ブリ／ポスト・イコライザー・コントロール・スイッチ
- （ラインアウト (XLR) 用）
- グラウンド・リフト・コントロール・スイッチ
- （ラインアウト (XLR) 用）
- バランスド・ラインアウト (XLR)

SPEAKER OUT

2のスピーカーキャビネットを接続することができます。高品質なノイトリック・スピコン・コンボジャック(19)には、スピコンケーブルまたは 1/4" スピーカーケーブル、どちらも使用することができます。セカンドスピーカージャック(20)には、1/4" ケーブルしか使えません。スピーカーケーブルを使用し、楽器用のケーブルは使わないでください。

コンボヘッドの場合、もともとスピーカーに接続されていますが、外部のキャビネットに接続することもできます。本体のスピーカージャックからケーブルを取り外し、外部のスピーカーキャビネットに接続します。または 2 つのジャックを利用して、本体のキャビネットと外部のキャビネットを同時に使うこともできます。

TUNER OUT

チューナー・アウト(21)はチューナーにアンバランスド信号を送ります。ペダルを経由して音質を低下させてしまう、といったことはありません。このアウトプットは他のアンプや、バランス入力でなくてもよいレコーディング機器に使うこともできます。

EFFECT SEND AND RETURN

リアパネルのエフェクト・センド(23)とエフェクト・リターン(22)を利用して、エフェクトペダルやラック製品を使うことができます。この接続をしていれば演奏中に外部エフェクターのバッテリーが切れても、音がとぎれません。

LINE OUT

このバランスド XLR ラインアウト(26)は、ライブやスタジオにおいて、バランス信号をミキシング・コンソールなどに送り出すことができます。このラインアウトのシグナルは、ブリ／ポスト・イコライザー・コントロール・スイッチ(24)によって、ブリEQ(EQやフィルターのセッティングが効いていない)または、ポストEQ(EQやフィルターのセッティングが効いている)を選択することができます。

GROUND LIFT

ライブなどでの演奏中、ラインアウト(26)使用などの際、アンプの信号にハムノイズが発生する場合があります。これは電源と関連したグラウンドの状態に起因するものです。このグラウンド・リフト・スイッチ(25)を切り替えることにより、ハムノイズを除去することができます。

3. TROUBLESHOTTING TIPS

【高温の保護】

症状：アンプが熱くなり、電源が切れます。
考えられる原因：換気が不十分であるか、冷却システムのファンが故障しているために、アンプが過熱しています。アンプが安全なレベルまで冷えると、アンプは自動的に再起動します。

提案：ファンが正常に動作していること、および冷却システムのポートが塞がれていないことを確認して下さい。

【スピーカー接続の保護】

症状：アンプはオンになりますが、スピーカーから音が出ません。
考えられる原因：低インピーダンスにより負荷(マークベースアンプの最小インピー

ダンスは4オームです。)またはスピーカーケーブルの不良。
提案：アンプに接続されているスピーカーのインピーダンスを確認してください。2つの4オームキャビネット、または8オームと4オームのキャビネットでは、インピーダンスが4オーム未満にならない様注意してください。スピーカーケーブルを確認してください。
この2つを確認した後、アンプの電源を切り、再度電源を入れてください。

4. 技術的仕様

INPUTS

インプット 1
インピーダンス 500KΩ、最大ボルテージ 15Vpp
インプット 2
バランス XLR インピーダンス 1MΩ、最大ボルテージ 25Vpp
エフェクト・リターン
インピーダンス 33KΩ、最大ボルテージ 10Vpp

CONTROLS

ゲイン 1 -60 dB~ +23dB レンジ
ゲイン 2 -60 dB~ +23dB レンジ
ラインアウト レベル・コントロール（フロントパネル）
ブリ／ポスト EQ（ラインアウト用）スイッチ（リアパネル）
グラウンド・リフト スイッチ（リアパネル）
ミュート プル・アウト・マスター・ノブ
マスター・ボリューム

EQUALIZATION

ロー 60Hz 以下、レベル ±16dB
ミッド・ロー 中心周波数 360Hz、レベル ±16dB
ミッド・ハイ 中心周波数 800Hz、レベル ±16dB
ハイ 5KHz 以上、レベル ±16dB
VLE（ヴィンテージ・ラウドスピーカー・エミュレーター）
最大カット・レンジ 250Hz~20KHz
VPF（バリアブル・プリシェーブ・フィルター）
中心周波数 380Hz（カット）

OUTPUTS

エフェクト・センド	アンバランス、最大ボルテージ 20Vpp
チューナー・アウト	アンバランス、最大ボルテージ 2Vpp
ライン・アウト	バランス XLR、最大ボルテージ 20Vpp
スピーカー・アウト	スピコン、1/4" ジャック
アウトプット・パワー	

	300W RMS(8 Ω)、500W RMS (4 Ω) (Little Mark Tube)
	500W RMS (8 Ω)、800W RMS(4 Ω) (Little Mark Tube 800)
電源	100V 50/60Hz（日本仕様）

注意：工場出荷時に使用される国のボルテージに設定されています。改造によるボルテージの変更はおやめください。

FUSE

Little Mark Tube：	
日本	10A 250V T 5×20
ヨーロッパ、オーストラリア	4A 250V T 5×20
アメリカ、カナダ	8A 250V T 5×20

Little Mark Tube 800：	
日本	10A 250V T 5×20
ヨーロッパ、オーストラリア	6.3A 250V T 5×20
アメリカ、カナダ	8A 250V T 5×20

OTHERS

高さ	7.1cm（2U ラックサイズ）
幅	27.6cm
深さ	25.5cm
重量	2.97kg(Little Mark Tube)
	2.86kg(Little Mark Tube 800)